

F M U NEWS Letter

MAY 6, 2022 Vol.1



本学教員、医療監修を務めた映画試写会に参加

フジテレビで放送され、人気を博したドラマを映画化した「劇場版ラジエーションハウス」の診療放射線技師の卵限定試写会が、令和4年4月19日(火)に恵比寿ガーデンプレイスで開催されました。

写真左から、保健科学部診療放射線科学科五月女康作准教授、主演の窪田正孝さん、本田翼さん

本学教員や診療放射線技師20人が制作協力

本作品で、脚本作りから携わり医療監修も務めた本学保健科学部診療放射線科学科五月女康作准教授が、主演の窪田正孝さん、本田翼さんと共に試写会後に行われたトークショーに登壇しました。

はじまりは診療放射線技師と放射線科医の漫画制作依頼

五月女康作准教授は、壇上で「集英

社に『診療放射線技師と放射線科医を漫画で取り上げてほしい』とお願いに行き、その後、漫画の連載が始まり、ドラマにもなって、劇場版(映画)にまでなる夢のようなステップに感慨深く、日本中の診療放射線技師と放射線科医を代表して、心からお礼を申し上げたい」と述べました。

また、映画をいち早く鑑賞した診療放射線技師を目指して勉強している都内の約100名の学生が悩みや質問をぶつけ、登壇した三人が心のこもった回答で会場を沸かせました。

イベントの詳細な様子はこちらから



英国のがん研究機関及び国内商社とがん研究に関するパートナーシップを締結 [医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター]

本学は、英国がん研究機関「キャンサー・リサーチ・ユケー」及び国内商社「住商ファーマインターナショナル」と、がん研究に関するパートナーシップ締結を令和4年4月14日(木)に発表しました。

がん研究の進歩はこれまで、各研究者が保有する希少かつ特徴的ながん研究資材が、どこまで研究者のコミュニティ内で公開・使用許諾されるかに依存してきました。

今回のパートナーシップによって、

がんモデルの樹立・薬剤開発・毒性学スクリーニング等を目的としている世界中のがん研究者が、英国がん研究機関を通して、医療-産業トランスレーショナルリサーチセンターが開発したがん組織由来培養細胞「がんオルガノイド(F-PDO®※)」を利活用できるようになります。

F-PDO®を増殖・分化させることにより、元のがん組織の特徴を機能的に受け継ぐだけではなく、抗がん剤

の安全性及び有効性を評価するための生理学的手法としても使用することができ、薬剤等の治療に対する患者の生理学的反応をよりの確に予測・確認することが可能です。

※F-PDO®は公立大学法人福島県立医科大学の登録商標です。

詳細はこちらから





親子で本学に同時入学

令和4年4月6日(水)に開催した入学式に、今井亮さん、拓海さん親子(福島県出身)が臨みました。父である亮さんは大学院看護学研究科博士後期課程、長男の拓海さんは医学部にそれぞれ入学しました。

亮さんは福島県内の病院で看護師として勤務しながら本学大学院看護学研究科修士課程(現博士前期課程)を修了し、現在は文京学院大学保健医療技術学部看護学科の助教を務めています。

式典で新生代表の一人として宣誓した亮さんの様子を見届けた拓海さんは「父の一生懸命な姿に勇気をもらった」と父への思いを語り、亮さんは「挑戦することの大事さを感じてほしかった」と息子への思いを語りました。

亮さん、拓海さん親子は、「故郷福島に貢献できる医療人を目指す」と揃ってコメント。次なる目標に向け医療の道を歩みます。



写真左から今井亮さん、拓海さん



言語的・文化的背景の異なる外国人患者さんの診療を想定した研修を実施



令和4年4月12日(火)、本学附属病院の研修医向けに外国人患者さんの診療を想定したセッションが行われました。

外国人患者さんの診療に関してトラブルが起こりやすい場面を想定した複数のシナリオを作成し、セッションの当日は研修医が医師役となり、本学の外国人教員らが演じる患者役と実際にロールプレイングを行いました。

参加した研修医からは、言語的・文化的背景の異なる患者さんを診療する際に配慮すべき点などについて多くの質問が挙がり、事後アンケートでは「言葉ばかり気にするのではなく、まずはコミュニケーションをうまく取れるように考えて患者さんと向き合いたい」という意見も見られました。

主催した医療人育成・支援センターの及川沙耶佳助教は、「今後またこのようなセッションを開催できたら」と意欲的にコメントしました。

詳細は
こちらから



本学附属病院先端的低侵襲手術センター設置のお知らせ

令和4年4月1日(金)、本学附属病院に、先端的低侵襲手術センターを設置いたしました。

手術支援ロボットやハイブリッド手術室など、先端の機器を用いた高度な手技を必要とする治療が増加している中で、当院においても、身体的負担が少なく、より精緻で高度な医療提供をさらに進め、より安全に治療できる体制を構築することを目的に、院内を横断する組織として本センターを設置しました。

経験豊富な高い専門性を持った医師やスタッフによる症例が集まることで、複数診療科による症例検討や知見の共有、医師の教育・育成を加速させます。患者さんの術後の疼痛緩和、運動機能維持、合併症併発のリスク低減による早期回復、早期社会復帰、精神的や経済的負担の軽減などを目指します。

詳細は
こちらから



レジリエンス
福島の特産

ショートムービー
「レジリエンス～福島
の物語～」公開

基盤研究C「複合災害被害避難・帰還者のレジリエンス獲得」研究班(主任研究者 大戸齊)では、2011年の震災・津波・原発事故を経験した方を対象として、レジリエンスとメンタルヘルスの関係について研究を続けてきました。

その研究報告活動の一環として、「レジリエンス」について多くの方に知ってもらうために、ショートムービーを作成し、令和4年4月25日(月)、本学公式YouTubeチャンネルで公開しました(補足説明付字幕、英語版字幕もあります)。

ムービーでは、実際に困難に直面した方が日常生活を取り戻すための体験について取材し、それぞれの人が自分なりに新しい日常を積み重ねてこられた、レジリエンスストーリーを紹介しています。ぜひご覧ください。

詳細はこちらから

Movie

Web site